

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月24日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19402035

研究課題名（和文） 「結社」に関する学際的海外学術調査

研究課題名（英文） Interdisciplinary academic research abroad on “associations”

研究代表者

白鳥 義彦（SHIRATORI Yoshihiko）

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：20319213

研究成果の概要（和文）：本研究では、社会学、文学、歴史学といった人文学の学際的な共通基盤の上に、「結社」という研究視点を共有して、フランス、イギリス、インド、アメリカ、日本等を主たるフィールドとして研究を行った。また「結社」の概念を幅広く捉えながら研究を遂行することにより、「結社」の多様性と、社会における人間の活動を考察する際の「結社」という枠組みの有効性を把握することができた。歴史的な展開のコンテクストを踏まえつつ、地域的な比較の観点にも着目しながら、社会における「結社」の意義を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to shed light on the significance of “associations” in society on the interdisciplinary common base of the humanities—sociology, literature and history. Our main research fields are France, UK, India, USA and Japan. By applying a wider concept of “associations”, we have brought to light the diversity of “associations” and the validity of the frame of “associations” for the research on human activities in society. Taking into consideration the context of the historical development as well as the comparative point of view of localities, we have clarified the importance of “associations” in society.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2007年度 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |
| 2008年度 | 2,800,000 | 840,000 | 3,640,000 |
| 2009年度 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |
| 2010年度 | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 12,100,000 | 3,630,000 | 15,730,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会集団・社会組織、結社、学際性、海外学術調査、地域的比較、歴史的比較

1. 研究開始当初の背景

研究代表者が専門とする社会学の分野においては、「結社」の問題は常に研究関心の重要な一分野を占めてきた。社会学的な思考の根本的な背景をなす近代的な「個人」の理

念が生まれる中で、その個人と全体社会とをつなぐ中間集団の主要な一形態として結社はとらえられてきた。同時に、「結社」は、このような古典的な意味合いのみでとらえられるばかりでなく、現代社会の諸問題を考

察するに際して、結社の重要性が認識される。さらに、歴史学や文学といった分野でも近年、結社に対する学術的な関心が高まっており、「結社」を問題関心の軸に据えることによって、社会学的な観点にとどまらず、歴史学や文学等の他の分野とも共通した基盤の上で学際的な研究を進めることが可能な状況にある。これらが、本研究に取り組むに至った背景である。

2. 研究の目的

「結社」という研究視点を共有しつつ、フランス、アメリカ、イギリス、インド、韓国、日本をフィールドとして、社会学、文学、歴史学といった人文学の学際的な共通基盤の上に研究を進める。本研究では「結社」の概念を幅広く捉え、「結社」の多様性と、社会における人間の活動を考察する際の「結社」という枠組みの有効性をまず把握する。その上で、フィールドとなるそれぞれの社会における「結社」を具体的に考究する。「結社」は社会を構成する重要な単位としてもとらえることができようし、様々なかたちの社会運動を支える役割を担うこともできようし、他者性を保持しつつ多様性をもった共存的な社会の存在を可能にすることもできよう。こうした研究を通じて、最終的には現代諸社会における「結社」の意義を、歴史的な展開のコンテクストを踏まえつつ明らかにすることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

「結社」を学際的、歴史的に考察していくために、(1)「結社」に関する理論的な考察、(2)近現代フランスにおける「結社」の法的な位置づけの変遷、現代における様々な活動の諸相、政府等の公的なセクターとの関係とそこから明らかにされる社会的な役割の考察、(3)近現代アメリカ社会における「結社」の展開、現代における実態の分析、(4)イギリスとインドの連結点としての、Asiatic Societyの位置づけの探究、(5)人的結合のモデルケースとしての、南アジアのイスラーム教徒社会に関する調査・研究、(6)近世の都市生活に特徴的であったギルド・コンプレキ・街区を分析の対象とし、リヨンを主たるフィールドとしながら、これらがどのように運営され、どのような社会的役割を担っていたのかに関する考察、(7)日本の歴史における、結社に関わる諸表象の中で、当該社会の中で構造的劣位にある人々にとって「居場所」となるような結社のあり方について、といった諸課題を設定し、フィールド調査や文献調査を通じてこれらの諸課題について具体的に明らかにしていった。

4. 研究成果

本研究を通じて、「結社」の多様性ならびに社会において「結社」の果たす重要な役割が明らかにされた。「結社」は社会を構成する重要な単位としてもとらえることが可能であるし、様々なかたちの社会運動を支える役割を担うことも可能であるし、さらに他者性を保持しつつ多様性をもった共存的な社会の存在を可能にする手段としてもとらえることができるのである。フランス、アメリカ、イギリス、インド、日本といった諸地域を主たる対象としながら、フィールド調査や文献調査を通じて行われる本研究を通じて、歴史的な展開のコンテクストを踏まえつつ、地域的な比較の観点にも着目しながら、「結社」の意義を明らかにすることができた。研究期間全体を通じて、各々の研究成果は国際・国内学会や、論文、書籍といった形で発表を行ってきており、さらに2012年3月には、これまで得られた研究成果をもとにして、研究成果報告書(104頁)を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

①白鳥義彦「現代フランスにおける『結社』『紀要』(神戸大学文学部)、査読無、39巻、2012年、19-37頁

②真下裕之「インド・イスラーム社会の歴史書における『インド史』について」『紀要』(神戸大学文学部)、査読無、38巻、2011年、51-107頁

③白鳥義彦「フランスの高等教育制度と大学の設置形態」『大学の設置形態に関する調査研究—国立大学財務・経営センター研究報告第13号』、査読無、13号、2010年、91-110頁

④ MATHEE Rudi and MASHITA Hiroyuki “Kandahar: iv. From the Mongol invasion through the Safavid era, Encyclopaedia Iranica”. Online Edition, 10 November 2010, available at <http://www.iranica.com/articles/kandahar-from-the-mongol-invasion-through-the-safavid-era>, 査読無、2010年

⑤油井清光「グローバル化の下の『複数の第二の近代』—個人、中間集団、そして国家—」『社会学評論』、査読有、60巻3号、2009年、330-347頁

⑥佐藤光「エラズマス・ダーウィンとウィリ

アム・ブレイク再考』『超域文化科学紀要』
査読無、14巻、2009年、5-18頁

⑦真下裕之「インド洋海域史における17世紀前半インド西海岸の港市 Surat の一側面」
『海港都市文化研究』査読無、創刊号、2009年、43-74頁

⑧白鳥義彦「フランスの高等教育をめぐる新たな動き」『社会学雑誌』、査読無、25巻、2008年、62-71頁

⑨白鳥義彦「デュルケームと個人主義」『社会学史研究』、査読無(依頼論文)、30巻、2008年、73-86頁

⑩白鳥義彦訳(クリストフ・シャルル著)「フランスの大学とポーロニャの挑戦」『社会学雑誌』査読無、25巻、2008年、3-23頁

⑪小山啓子「叛乱から共存へ—宗教戦争後のリヨンにおける国王の表象と都市の再編—」
『西洋史論叢』査読有、29巻、2007年、95-110頁

[学会発表](計19件)

①白鳥義彦「フランス社会と結社」2011年度日仏教育学会、2011年11月13日、関西大学

②真下裕之「南アジア史におけるイスラーム化と改宗」千葉大学 COE スタートアッププログラム「邂逅と共生の歴史学：新しい世界史像の構築」研究会「近世世界における『改宗』問題」、2011年1月8日、千葉大学

③白鳥義彦「現代フランスにおける『結社』」2010年度日仏教育学会、2010年10月16日、十文字学園女子大学

④小山啓子「16世紀のリヨンにおけるイタリア人 帰化問題を中心に」中・近世ヨーロッパにおけるコミュニケーションと紛争・秩序、2010年8月7日、京都大学

⑤SATO Hikari “A Digitally Disintegrated Reception of Blake?—The Case of “Yameru Sobi” or “The Sick Rose” by MIKI Rofu”, Digital Romanticism: An International Conference, 2010年5月20日-21日, University of Tokyo

⑥真下裕之「インド・イスラーム社会の歴史書における『インド史』について」史学会例会、京都大学

⑦SATO Hikari “William Hayley and Natural History: *Ballads Founded on anecdotes relating to animals* (1805)”, The 11th biennial International conference of the British Association for Romantic Studies: Romantic Circulations, 2009年7月23日-26日, Roehampton University, UK

⑧真下裕之「インド洋海域史における海港都市:17世紀前半におけるインド西海岸の海港都市スーラトの一側面」東アジア海港都市の共生論理と文化交流、2008年11月27日、韓国海洋大学校(釜山)

⑨白鳥義彦「フランス社会学成立期における『道徳』の概念」2008年度日仏教育学会、2008年10月19日、志學館大学

⑩佐藤光「Erasmus Darwin, The Botanic Garden (1791) から William Blake へ」イギリス・ロマン派学会第34回全国大会シンポジウム「エラズマス・ダーウィンの系譜とイギリス・ロマン派」、2008年10月11-12日、四国大学

⑪白鳥義彦「フランスにおけるグランド・ゼコール進学者」第60回日本教育社会学会、2008年9月20日、上越教育大学

⑫小山啓子「近世初期のリヨンにおけるイタリア人」関西フランス史研究会、2008年7月12日、京都大学

⑬SHIRATORI Yoshihiko “The role of associations in the modern society”, The 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 2008年6月28日, Central European University, Budapest, Hungary

⑭白鳥義彦「モースの協同組合論」デュルケーム・デュルケーム学派研究会、2008年4月19日、和歌山大学

⑮小山啓子「都市から宮廷への特使派遣:16世紀リヨンの市参事会・都市住民・王権」都市史研究センター／伝統都市の比較史「都市エリートと民衆」2008年3月11日、東京大学

⑯白鳥義彦「フランスにおける『アフターマティブ・アクション』をめぐる」2007年度日仏教育学会、2007年10月28日、愛知県立大学

⑰佐藤光「William Blake とインドの連結点—William Hayley が果たした役割」日本比

較文学会東京支部例会、2007年9月15日、
日本大学

⑱ SATO Hikari “Liberation and Intolerance - Rereading of Blake's Europe”, The British Association for Romantic Studies/ North American Society of Studies in Romanticism 2007: Emancipation, Liberation, Freedom, 2007年7月26日-29日, University of Bristol, UK

⑲白鳥義彦「デュルケームの個人主義について」第47回日本社会学史学会大会（シンポジウム報告）2007年7月1日、盛岡大学

〔図書〕（計19件）

①白鳥義彦（研究代表者）『「結社」に関する学際的海外学術調査』2007年度～2010年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（海外学術調査）研究成果報告書、神戸大学、2012年、104頁（白鳥義彦「まえがき」1頁、白鳥義彦「現代フランスにおける『結社』」3-14頁、小山啓子「16世紀リヨンにおける『結社』としての外国人同郷団と帰化問題」15-30頁、佐藤光 SATO Hikari “The ‘Religion of Jesus’ in Blake: Blake, Neoplatonism and India” 31-67頁、真下裕之「南アジアのイスラーム派に関する歴史研究のための覚書」68-87頁、樋口大祐「敗北する検非違使」88-104頁）

②白鳥義彦「方法としての『社会』—E. デュルケーム『社会学的方法の規準』井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックズ別巻 社会学的思考』、世界思想社、2011年、13-22頁

③小山啓子「16世紀のフランス」佐藤彰一・中野隆生編『フランス史研究入門』、山川出版社、2011年、101-114頁

④樋口大祐「敗北する検非違使」佐伯真一『中世の軍記物語と歴史叙述』、竹林舎、2011年、146-170頁

⑤樋口大祐『『東国通鑑』と『本朝通鑑』』小峯和明編『漢文文化圏の説話世界』、竹林舎、2010年、217-236頁

⑥白鳥義彦『『五月革命』と大学』富永茂樹編『転回点を求めて——一九六〇年代の研究』、世界思想社、2009年、281-297頁

⑦真下裕之「南アジア史におけるペルシア語文化の諸相」森本一夫編『ペルシア語が結んだ世界：もうひとつのユーラシア史』、北海

道大学出版会、2009年、205-231頁

⑧白鳥義彦「フランス中等教育の多層性」山内乾史編著『教育から職業へのトランジション—若者の就労と進路職業選択の教育社会学』、東信堂、2008年、145-157頁

⑨SATO Hikari *William Blake and Multiculturalism: Between Christianity and Heathen Myths*, Ph.D. thesis, Birkbeck College, University of London, 2008, p. 301

⑩白鳥義彦『『亡命の権利』—フランスにおける難民受け入れ制度—』共生倫理研究会編『共生の人文学—グローバル時代と多様な文化—』、昭和堂、2008年、239-255頁

⑪真下裕之「イスラーム化の史実と伝説：南アジア史におけるイスラーム信仰戦士」共生倫理研究会編『共生の人文学—グローバル時代と多様な文化—』、昭和堂、2008年、190-214頁

⑫小山啓子「近世フランスの大都市リヨンとイタリア人」共生倫理研究会編『共生の人文学—グローバル時代と多様な文化—』、昭和堂、2008年、215-238頁

⑬樋口大祐「出会い損ねた「他者」—火野葦平『花の命』における中国人少女の「記憶」について—」共生倫理研究会編『共生の人文学—グローバル時代と多様な文化—』、昭和堂、2008年、150-168頁

⑭樋口大祐「多重所属者の軌跡—陳舜臣の一九三〇年代小説と華人ディアスポラ」緒形康編『一九三〇年代と接触空間—ディアスポラの思想と文学』、双文社出版、2008年、42-61頁

⑮白鳥義彦訳（フランソワーズ・ロルスリー著）「エスニック化した学校の発見—フランスの事例」ジークリット・ルヒテンベルク編、山内乾史監訳『移民・教育・社会変動—ヨーロッパとオーストラリアの移民問題と教育政策』分担翻訳、明石書店、2008年、213-260頁

⑯油井清光「グローバル化する社会と法」樫村志郎編『規範と交渉』法動態学叢書・水平的秩序1、法律文化社、2007年、75-91頁

⑰真下裕之「デリー・スルターン朝の時代」小谷汪之編『世界歴史大系 南アジア史 2 中世・近世』、山川出版社、2007年、102-134頁

⑱ MASHITA Hiroyuki (ed.) *Royal Asiatic Society Classics of Islam II. The Muslim World 1100-1700: Early sources on Middle East History, Geography and Travel*, Routledge, 2007, 8 volumes

⑲ 小山啓子「フランシスコ・ザビエルの時代のフランス」南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史』、ミネルヴァ書房(2011年10月原稿提出済み)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白鳥 義彦 (SHIRATORI Yoshihiko)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：20319213

(2) 研究分担者

油井 清光 (YUI Kiyomitsu)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：10200859

佐藤 光 (SATO Hikari)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：80296011

真下 裕之 (MASHITA Hiroyuki)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：70303899

小山 啓子 (KOYAMA Keiko)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：60380698

樋口 大祐 (HIGUCHI Daisuke)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：90324889

(3) 連携研究者

()

研究者番号：